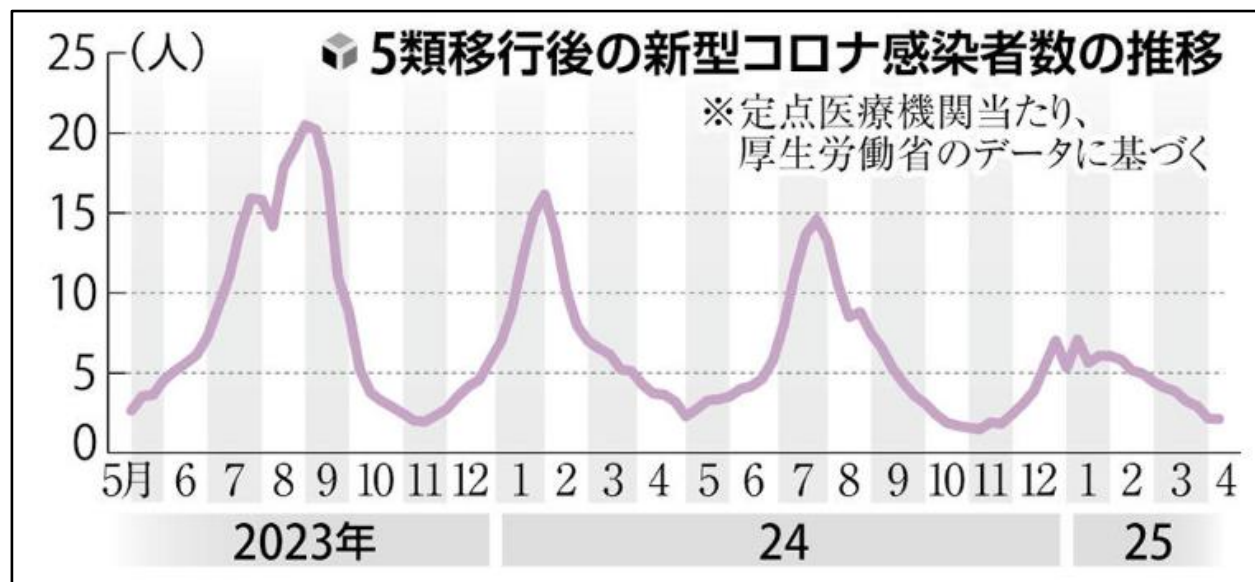


新型コロナ「5類」移行後の死者は5万人超える…専門家「今後も流行を繰り返す可能性は高い」

2025.5.8 読売新聞

新型コロナウイルスは「5類」移行後も感染の波を繰り返しており、移行後に新型コロナが原因で亡くなった人は5万人を超えた。専門家は「警戒すべき感染症に変わりはない」と呼びかける。



近年は夏と冬に感染が拡大する傾向がある。昨夏は、全国の定点医療機関当たりの患者数が全国平均で14・58人（7月22～28日）となり、「第11波に突入した」との指摘も出た。熊本、宮崎、鹿児島3県では5類移行後で最大の波となった。

昨年11月分まで公表されている厚生労働省の人口動態統計によると、同月までの新型コロナ

による死者は国内で約13万87

00人で、5類移行後に限っても約5

万700人に上った。一方、高齢者ら

を対象にしたワクチン定期接種の費用

助成について、厚労省は接種率の低さ

などを理由に今年度から取りやめる。

定期接種は10月に始まる予定だが、

国の助成がなくなるため、市町村が自

己負担額を上げる可能性がある。

感染症に詳しい鹿児島大の西順一

郎・客員研究員は「新型コロナは新し

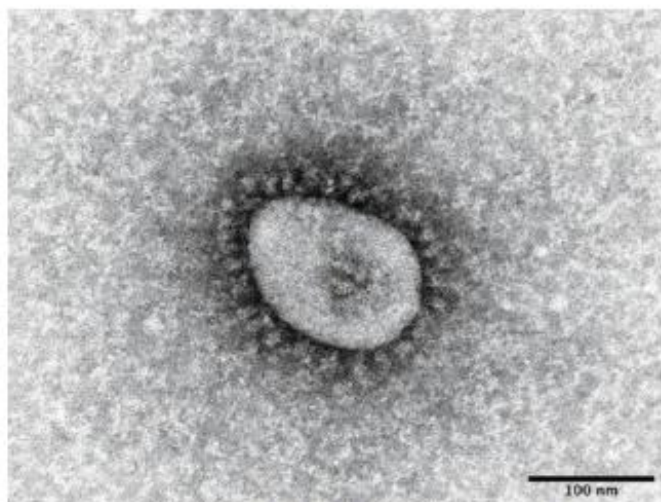
い感染症で、全ての人が免疫を持つ状

態になっていない。ワクチンを接種す

る人も減っており、今後も流行を繰り

返す可能性は高い」と指摘。「インフル

エンザよりもはるかに重い病気だと認識する必要がある。自覚症状がある場合、食事会への参加を控えたり、マスクを着けたりする配慮が求められる」と話す。（中村直人）



新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の電子顕微鏡写真（国立感染症研究所提供）